



# 淨土宗西山禪林寺派 総本山 永觀堂 禪林寺



永觀堂 禅林寺の歴史

永觀律師をさかのぼること、二〇〇年あまり。禅林寺は真言密教の寺として始まりました。八六三年、弘法大師の高弟・真紹僧都が、清和天皇から寺院建立の許可をもらい、禅林寺という名を賜わったのです。

禅林寺が大きく発展したのは、永觀律師の時代です。律師は、境内に施療院を建てるなど、恵まれない人々のために奔走。永觀律師を慕う人々によつて、禅林寺はいつしか、永觀堂と呼ばれるようになりました。

鎌倉時代に住職となつた静遍僧都は、高名な真言宗の僧侶でした。お念佛をとなえるだけで救われるという教えに反発をおぼえ、自分のほうが正しいと証明しようと、法然上人の著書を開きました。ところが、いくら読んでも「間違っているのは自分では」と思わせ

されることはばかりでした。ついに、静遍はお念佛の教えに深く帰依きえいします。そして法然上人のまな弟子・証空上人を次の住職として招きました。

証空上人は、すべてを阿弥陀佛にまかせきつてとなるえるお念佛の大切さを説き、「白木の念佛」と名づけて、人々に勧めました。それは、阿弥陀さまが私たちのような者でも一人残らず救つてくださることへの悦びの念佛といつていいでしよう。のちに、禅林寺は、法然上人を宗祖に、証空上人を派祖にいただく、淨土宗西山禅林寺派の總本山となりました。

永觀堂 禅林寺は、はるか平安の昔から、称名念佛の根本道場として、阿弥陀さまの慈悲のこころを護り伝えていきます。

浄土宗西山禪林寺派 総本山 永觀堂 禪林寺  
〒606-8445 京都市左京区永觀堂町48  
TEL: (075)761-0007 FAX: (075)771-4243  
<https://www.eikando.or.jp/>

# みかえり阿弥陀と永觀律師

主な行事

**みかえり念佛行道会** 2月14日～15日

永保二年（一〇八二）二月十五日早朝。阿弥陀堂に人影がうごく。夜を徹して東の空がしらじらとし始めた。ふと緊張がとけた一瞬、僧は息をのんだ。自分が前に誰かがいる。それが誰か気がついて、足が止まつた。

「永観、遅し」

ふりかえりざま、その方は、まつすぐ永観の眼を見つめられた。

永觀堂禪林寺のご本尊は、首を左にかしげ、ふりむいておられます。ほんの少し開かれたお口。お顔全体にただよう穏やかな微笑み。それは遠い昔、永觀律師を励まされた時のまま。阿弥陀さまは例がなく、「みかえり阿弥陀」と呼ばれ、広く知られています。

現代の私たちが、みかえり阿弥陀のお姿に教えられるもの、それは、遅れる者を待つ姿勢。思いやり深くまわりをみつめる姿勢、そして自分自身をかえりみ、人々とともに正しく前へ進む姿勢。それはまた、阿弥陀さまの私たちへの想いなのです。



## 【阿弥陀堂】

ご本尊「みかえり阿弥陀」がまつられる本堂。慶長12年に大阪から移築された。堂内は極彩色で、格天井には「百花」が描かれているが、両端の長方形の部分だけは、白く塗った「散り蓮華」となっている。

## 【三鉢の松】

葉先が3つに分かれている珍しい松の古木。「三鉢」は、「智慧」「慈悲」「まごころ」を表す。この松の葉を持っていると、3つの福が授かるといわれる。



## 【唐門】

天皇の使いが出入りするときに使われた勅使門。釈迦堂との間に盛り砂がつくられている。勅使はこの盛り砂を踏んで身を清めてから、中に進んだ。



## 【悲田梅】

永觀律師は、境内の梅の木に実がなるのを待ちかねて、貧しい病人に施したといわれる。その梅の木は、いつしか「悲田梅」と呼ばれるようになり、今も永觀堂の境内でかわいらしい実をつける。

- 1 東山を背景に、阿弥陀堂をはじめとする古建築が、緑と水に恵まれた庭に調和しています。古来、都びとに愛された優美な景観のなかで静かなひとときを過ごしていただけます。
- 2 「もみじの永觀堂」は、全国にその名を知られています。境内を染め上げる紅葉はもちろん、お堂や回廊のすぐ目の前にせまってくる鮮やかな岩垣紅葉は、ここでしか見られないものです。

## 特徴と見どころ

- 3 みかえり阿弥陀のほか、びんざる尊者像など、功德ある佛さまを拝むことができます。
- 4 斬新なデザインと彩色で知られる長谷川等伯とその一門による「竹虎図」「楓雉子図」など、桃山時代の金碧障壁画の傑作が觀られます。また、国宝「山越阿弥陀図」や重要文化財「当麻曼陀羅図」など、多くの宝物を所蔵しています。



竹虎図(虎の間)

## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【臥龍廊】

山の斜面にそって、巧みに木を組み合わせてつくられた廊下。起伏が激しく、龍の体の中を歩いているような不思議な気分が味わえる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真詮僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



## 【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松島図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



## 【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



## 【火除けの阿弥陀】